

食品安全に関する緊急時対応体制 強化検討に資する調査について (中間報告)

2006年8月21日(月)
(株) 三菱総合研究所



危機管理とは

■定義: 危機が発生した場合の損失を極小化するための活動

- 危機管理は以下の一連の過程を含んだ概念
- 危機が発生した場合を想定した事前準備
- 危機状況下における対応(応急対応)
- 復旧対策
- 危機の再発防止対策



危機管理に必要な考え方・技術の 要点



- 平常時における事態の想定、想像力の涵養
- 基本方針、守るべきものの優先順位に基づく対応
- Proactiveの考え方＝先を見越した行動をとる（予測に基づく対応）、率先してやる（迅速性＝拙速を旨とする、空振りを恐れない）
- 情報収集・分析・統合能力
- 情報の共有と認識の共有（例：事態の重篤度に対する認識）
- 明確な意思決定過程、簡素な指揮命令系統

危機管理に必要な考え方・技術の 要点②



- 判断基準、不確実状況下での意思決定の考え方、方法の確立
- トップの意思決定を支援する組織と実務組織
- 現場への権限委譲、現場主義、自立性
- 事態に応じた体制確立と連携（役割分担の基本を決めておいて、危機時には臨機の役割分担を行う）
- 対応能力分析（平常時、緊急時）
- プレス対応、住民広報＝クライシス・コミュニケーション

緊急時対応訓練の目的



訓練目的

理解 習熟	①専門知識を習得する
	②危機や設備の取扱いに習熟する
動作確認 連携手順 の確認	③通信連絡機器に関する動作確認を行う
	④関係者が共通理解を得る
	⑤定められた対応を迅速かつ確実に実施する
	⑥防災対応の連携手順を確認する
実践的な 対応力の 向上	⑦対応力や判断能力を向上させる
	⑧体制や計画の実効性を検証する
	⑨実際の緊急時の現場に近い環境で対応を経験する。

緊急時対応訓練の手法 (訓練形式)

訓練形式	特 徴
研修会	- 座学を中心として、基礎的知識及び専門知識の習得を図る。 - 組織が抱える未解決の課題等についても議論を深める。
机上 シミュレーション	- 実際に体を動かすものではなく、イメージ力の向上や、判断能力の向上を目的とする場合に適した訓練。 - 空間的・時間的制約がないため、例えば災害の長期化に関する課題の抽出等、実際の訓練では実施が困難な事項の検討にも適している。
シナリオ 提示型訓練	- 対応手順や連携の確認に主眼をおくため、事前に訓練シナリオを提示する訓練。 - 実践的な対応力の向上には向かない。
シナリオ 非提示型訓練	- 訓練シナリオを事前に提示しない形式の訓練。 - 完全な抜き打ち訓練ではないが、訓練参加者(プレーヤー)は訓練中にコントローラーから付与される情報(状況)に基づき自ら判断し行動する。 - 実践的な対応力を検証するのに適している。
抜き打ち訓練	- 訓練開始のタイミングでさえも事前に参加者に伝えない訓練。シナリオ非提示型訓練よりもより現実に近い状況設定となる。 - 訓練による混乱防止の観点から、対象範囲は限定される。

机上シミュレーション(イメージ) ②



考えられる展開		対応
初期	A県で朝の7時半にM7の直下型地震が発生	
展開	・死亡者×人、行方不明者×人、重傷者×人 ・朝食時間帯 →火災の発生 ・通勤・通学時間 →帰宅難民者の増大 ・M5クラスの余震の頻発 →被害の拡大化 ・ ・	・緊急対策本部の設置 →国、他府県、自衛隊への応援要請 →状況の把握 →県民への情報提供 →避難及び救助の指示 ・ ・ ・ ・

机上シミュレーション(得られる効果)



- 新しい訓練になれないための戸惑いや不満、反発などがある場合もある。
- 緊急時のイメージをつかみ、関係者で共有する。
- 組織の幹部が参加することで意志決定訓練の意義が高まる。

緊急時対応訓練の手法 (訓練目的と訓練形式)

訓練目的		訓練形式
理解 習熟	①専門知識を習得する。	研修会 シナリオ提示型訓練
	②危機や設備の取扱いに習熟する。	研修会 シナリオ提示型訓練
動作確認 連携手順 の確認	③通信連絡機器に関する動作確認を行う。	シナリオ提示型訓練
	④関係者が共通理解を得る。	研修会 シナリオ提示型訓練
	⑤定められた対応を迅速かつ確実に実施する。	シナリオ提示型訓練
	⑥防災対応の連携手順を確認する。	シナリオ提示型訓練
実践的な 対応力 の向上	⑦対応力や判断能力を向上させる。	シナリオ非提示型訓練 机上シミュレーション
	⑧体制や計画の実効性を検証する。	シナリオ非提示型訓練 机上シミュレーション
	⑨実際の緊急時の現場に近い環境で対応を経験する。	抜き打ち訓練

訓練規模と特徴



訓練規模	特 徴
要素訓練	訓練対象となる緊急時対応の要素ごとに検証する →単独で実施、あるいは他の訓練項目に影響を与えないため、実効性・実践性の高い訓練形式を選択可能 →他の訓練項目と共通の時間軸にのらない訓練項目の場合に適用
総合訓練	複数の訓練項目を併せて実施して全体の連携を確認する →全体フレームを動かすため防災体制の理解増進につながる →要素訓練の成果を確認する →多くの場合シナリオ提示型訓練を基本とする。ただし一部にシナリオ非提示型訓練を組み合わせることは可能

訓練手法の整理



- 訓練の企画立案時には「訓練目的」と「訓練対象」を選定することが重要
- 1回の訓練で全ての要素を検証することは不可能。
- 目的に応じて適切な訓練形式を選択し、複数の訓練を組み合わせて実施していく。

訓練手法の整理②



- **対象組織による視点**
 - 政府・省庁／都道府県／市町村／地域住民／関係機関
- **対応フェーズによる視点**
 - 警戒段階／初動段階(立ち上げ)・(立ち上げ～数時間)・(夜間)／応急対策段階／回復段階
- **活動項目による視点**
 - 初期情報連絡／対策本部の立ち上げ／対策本部の運営／情報収集・整理・判断／対策実施／プレス対応等
- **緊急時対応における要求機能による視点**
 - ハードウェア／ソフトウェア／ヒューマンウェア／コマンドウェア
- **能力開発目標による視点**
 - 事象検知・判断力／参集能力／初動体制の確立能力／情報収集・整理能力／課題抽出・把握能力／対策立案能力／情報伝達・協調連携能力／状況創出・認識共有能力／知識・理解・意識啓発／基本動作・機器取扱い能力

国内及び諸外国の例

訓練実施主体	件 名	訓練形式
東京都 福祉保健局	H17年度広域・大規模食中毒発生時の対応訓練(ノロウイルス)	●図上訓練 ●シナリオ提示型訓練
群馬県食の安全 危機管理チーム	H17年度食の安全危機管理第1回図上訓練	●図上訓練
三重県 農水商工部	三重県による高病原性鳥インフルエンザ 防疫初動対応図上訓練及び机上演習	●図上訓練 ●机上演習
新潟県新津支局 健康福祉環境部	平成15年新潟県による大規模食中毒訓練 (原因不明)	●実地訓練
英国環境・食料・ 農村地域省	Exercise Hornbeam (口蹄疫)	●図上訓練 ●シナリオ提示型訓練
豪農林水産省	Exercise Eleusis (人獣共通感染症)	●図上訓練 ●シナリオ提示型訓練
	Exercise Tethys (ウイルス性出血性敗血症)	●図上訓練 ●シナリオ提示型訓練
	Exercise Minotaur (口蹄疫)	●図上訓練

新潟県による大規模食中毒訓練 (実地訓練)

訓練日時	2003年2月5日
訓練想定	館内の小学校で午後二時から原因不明の嘔吐、下痢、腹痛などの症状を呈する児童が複数発生
危害要因	不明
訓練ポイント	特に原因物質が特定されていない事態に対する初期の対応について県、県警本部、消防、医師会、医療機関および検疫所など関連機関が連携し、迅速かつ適切な人命の救助及び被害拡大を防止するための訓練
訓練規模	学校、警察、消防、病院等の参加した合同訓練
訓練手法	実地訓練

豪農林水産省 (人獣共通感染症の実地及び図上訓練)

訓練日時	2005年11月29日-12月1日
訓練想定	鶏卵生産者家畜場から人への感染の恐れのある活動性の高い鳥インフルエンザウィルスに感染した鶏が発見される。
危害要因	人獣共通感染症 (鳥インフルエンザ)
訓練ポイント	• 人獣共通感染症による全国レベルでの緊急事態対応体制の統制 • パブリックコミュニケーション • 疫病管理政策と戦略
訓練規模	• 政府機関、業界団体など • 合計1000名程度が関与
訓練手法	• 実地訓練 (シナリオ提示型) • 図上訓練